

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-244	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	言文 050-902	新編 言語文化 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- ・主体的・対話的で深い学びをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、我が国の文化や伝統に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
現代文編		
<b>1 ことばと出会う</b> 言葉の森を育てよう／言葉と愛 【言語文化の窓①】ことばの豊かさ、再発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつ価値についての認識を深め、言葉に対する興味を引き出すことをねらいとし、「言葉の森を育てよう」「言葉と愛」を位置づけた。(第1・5号)</li> <li>・【言語文化の窓①】ことばの豊かさ、再発見」に、日本語や英語など、言語による表現の多様さ、ものの見方の違いなどをまとめ、ことばへの興味・関心を高めるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 13-26
<b>2 表現を味わう</b> 水かまきり／とんかつ 【言語文化の窓②】現代小説に出会おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の小説における描写や会話、語り手の役割や場面の展開のしかたに対する理解を深めることをねらいとし、「水かまきり」「とんかつ」を位置づけた。(第1・3・4・5号)</li> <li>・【言語文化の窓②】現代小説に出会おう」に、さまざまな小説との出会い方を紹介し、言語文化としての現代小説に対する興味を高めるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 27-48
<b>3 文化を見つめる</b> 漢字と仮名の使い分け／アナログ的な日本の四季 【言語文化の窓③】日本語から見える文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語や日本文化の特徴、日本人の感性に対する理解を深めることをねらいとし、「漢字と仮名の使い分け」「アナログ的な日本の四季」を位置づけた。(第1・5号)</li> <li>・【言語文化の窓③】日本語から見える文化」に、自然を表す日本語、季語、平仮名・片仮名の成り立ち、日本の文字と世界の文字などをまとめ、我が国の言葉やそれにもとづいた文化・伝統に対する興味をかき立てるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp.49-62
<b>読書の広場</b> 一瞬の風になれ／◆展開：人生を照らす読書体験／光のうっしえ——須藤さんの物語／◆参考：戦争と文学 〈ブックガイド〉「かけがえのない一冊」を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたって読書に親しむ態度を養うことをねらいとし、〈読書の広場〉に「一瞬の風になれ」「光のうっしえ——須藤さんの物語」を位置づけ、末尾にブックガイドを付した。(第1・2・3・5号)</li> <li>・朝井リョウによる「一瞬の風になれ」評である「展開：人生を照らす読書体験」、戦時中の時代背景や戦争が文学に及ぼした影響についてまとめた「参考：戦争と文学」を設け、読書への興味・関心を高めるよう配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp.63-78
<b>4 物語を受け継ぐ</b> 羅生門／◆展開：『今昔物語集』巻第二九第一八	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説の構成や登場人物の心情の変化をとらえるとともに、古典作品と近代の作品とを対比しながら読み、作品間の影響関係に対する考察を深めることをねらいとし、「羅生門」と「展開：『今昔物語集』巻第二九第一八」を位置づけた。(第1・</li> </ul>	pp.79-100

<p>【言語文化の窓④】「羅生門」と翻案の世界（芥川の才筆）</p>	<p>3・5号)          ・「【言語文化の窓④】『羅生門』と翻案の世界」に、作品「羅生門」に関する資料、村上春樹による芥川評「芥川の才筆」、翻案作品に関する解説などをまとめ、「羅生門」や翻案作品に対する興味をかき立てるよう配慮した。(第1・5号)</p>	
<p><b>5 ことばと多様性</b>          祖母が笑うということ／ことばは光          【言語文化の窓⑤】ことばの多様性・可能性</p>	<p>・言葉の多様なあり方について考えを深めることをねらいとし、「祖母が笑うということ」「ことばは光」を位置づけた。(第1・2・4・5号)          ・「【言語文化の窓⑤】ことばの多様性・可能性」に、地域の方言、点字や手話などに関する資料を掲載し、多様な言葉のあり方に対する興味をかき立てるよう配慮した。(第1・2・4・5号)</p>	pp. 101-114
<p><b>6 近代文学に触れる</b>          夢十夜／形／◆展開：『常山紀談』松山新介の勇将中村新兵衛が事          【言語文化の窓⑥】日本近代文学を楽しもう（たけくらべ）</p>	<p>・日本近代文学に触れ、作品の象徴性や、文体の特徴、作品に込められた思想を読み取ることをとおして、近代の言語文化に対する理解を深めることをねらいとし、「夢十夜」「形」「展開：『常山紀談』松山新介の勇将中村新兵衛が事」を位置づけた。(第1・5号)          ・「【言語文化の窓⑥】日本近代文学を楽しもう」に、言文一致に関する解説、「近代文学冒頭選」、「たけくらべ」（原文と川上未映子の現代語訳との対比）やブックガイド等を掲載し、近代日本の言語文化に対する興味を喚起するよう配慮した。(第1・5号)</p>	pp. 115-134
<p><b>詩歌の調べ</b>          春のうた／夏のうた／秋のうた／冬のうた          【言語文化の窓⑦】詩歌を楽しもう</p>	<p>・『万葉集』から現代の詩、現代のポップスに至る、多様な詩歌に親しみを持ち、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるため、和歌、俳句、漢詩、詩などを位置づけた。また、日本人が培ってきた伝統的な自然観と言語文化との関係性に対する認識を深めることができるよう、詩歌を四季に分類して収録した。(第1・5号)          ・「【言語文化の窓⑦】詩歌を楽しもう」に、詩歌の文学史の概略や詩歌の修辞技法に関する解説を掲載し、言語文化としての詩歌への理解を深めることができるよう配慮した。(第1・5号)</p>	pp. 135-148
<p><b>古文編</b></p>		
<p><b>1 古文に親しむ</b>          古文への招待（古文の世界を楽しもう／いろは歌／◆参考：いろはカルタの世界）／児のそら寝／十二の「子」文字／阿蘇の史、盗人にあひてのがること          【言語文化の窓⑧】現代に息づく古典（古典の魅力）</p>	<p>・我が国の言語文化としての古典作品に対する興味を喚起し、伝統文化への関心を高めることをねらいとし、「古文への招待」に「古文の世界を楽しもう」「いろは歌」「参考：いろはカルタの世界」を位置づけた。(第1・5号)          ・古文を読むための基礎的な知識を身につけ、古典作品の特質を知ることがをねらいとし、「児のそら寝」「十二の『子』文字」「阿蘇の史、盗人にあひてのがること」を収録し、古文学習へのスムーズな導入を図った。(第1・5号)          ・「【言語文化の窓⑧】現代に息づく古典」に、狂言師野村萬斎による「古典の魅力」を位置づけたり、古典にいざなうブックガイドを掲載したりし、古典を学ぶことの意義を理解することができるよう配慮した。(第1・5号)</p>	pp. 149-174
<p><b>2 随筆を楽しむ</b>          徒然草／枕草子          【言語文化の窓⑨】随筆文学の広がり（人気エッセイスト、清少納言）</p>	<p>・古人の豊かな情操に触れることをねらいとし、我が国の古典作品として名高い随筆『徒然草』『枕草子』を収録した。(第1号)          ・個人の価値を尊重し、創造性を培うことをねらいとし、『徒然草』では教訓譚・滑稽譚、『枕草子』では類集的章段など、変化に富んだ内容と形式の章段を収録した。(第2号)          ・我が国の自然風土と言語文化の密接な関係に気づくことをねらいとし、作者の自然観や美意識が表れた章段を収録した。(第4号)          ・「【言語文化の窓⑨】随筆文学の広がり」に、三大随筆『枕草子』『方丈記』『徒然草』に関する解説や、小川洋子が『枕草子』の魅力をつづった文章「人気エッセイスト、清少納言」を掲載し、我が国の言語文化としての随筆への興味を喚起するよう配慮した。(第1・5号)</p>	pp. 175-200
<p><b>3 物語の広がり</b>          伊勢物語／◆参考：恋愛と結婚／平家物語          【言語文化の窓⑩】物語のいろいろ</p>	<p>・日本の古典作品における物語の魅力や多様性を理解し、想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとして『伊勢物語』『平家物語』を収録した。(第1号)          ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、当時の恋愛と結婚について理解を深めるためのコラム「参考：恋愛と結婚」を設けるなど、教材化に配慮した。(第5号)          ・「【言語文化の窓⑩】物語のいろいろ」に『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』の概要やそのほかの物語に関する解説、ブックガイドなどを位置づけ、我が国の言語文化としての物語に対する興味を喚起するよう配慮した。(第1・5号)</p>	pp. 201-224

<p><b>4 旅への思い</b> 土佐日記／更級日記／おくのほそ道 【言語文化の窓⑩】旅の文学マップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「旅」をテーマとした古典作品に親しみ、我が国の言語文化において「旅」がどのように扱われ、その中でどのような心情や情景が描かれてきたかを理解することをねらいとし、『土佐日記』『更級日記』『おくのほそ道』を位置づけた。(第1・5号)</li> <li>・【言語文化の窓⑩】旅の文学マップ」に、略地図とともに『土佐日記』『更級日記』『おくのほそ道』の旅の軌跡を示し、ブックガイドや文学碑に関する資料なども掲載して、「旅」にまつわる言語文化への興味を喚起するよう配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 225-240
<b>漢文編</b>		
<p><b>1 漢文に親しむ</b> 漢文入門——訓読という方法／訓読のきまり／格言／再読文字 【言語文化の窓⑪】漢文を身近に感じよう(漢文のすすめ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言語文化において重要な役割を担ってきた漢文に親しみをもち、漢文訓読への理解を深めることをねらいとして、「漢文入門——訓読という方法」「訓読のきまり」「格言」「再読文字」を位置づけた。(第1・5号)</li> <li>・漢文を読むための基礎的な知識を身につけることをねらいとし、人口に膾炙した格言を中心に例文を豊富に収録し、漢文学習へのスムーズな導入を図った。(第1号)</li> <li>・【言語文化の窓⑪】漢文を身近に感じよう」に、加藤徹「漢文のすすめ」やブックガイドなどを位置づけ、漢文の果たしてきた役割や漢文を学ぶ現代的意義について理解を深めることができるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 241-254
<p><b>2 現代に生きることば</b> 守株／五十歩百歩／蛇足／借虎威 【言語文化の窓⑫】故事成語に親しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代でも使われる言い回しのもととなった故事を収録し、漢文が日本の言語文化の中で果たしてきた役割を理解するとともに、漢文とともに伝えられてきた英知に触れ、幅広い知識と真理を求める態度を養うことができるよう配慮した。(第1・5号)</li> <li>・【言語文化の窓⑫】故事成語に親しむ」で、身近な故事成語を紹介し、漢文由来の言葉に対する興味を喚起するよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 255-264
<p><b>3 古人に学ぶ</b> 論語 【言語文化の窓⑬】『論語』と現代(『論語と算盤』)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国古典を代表する書物であり、日本人の精神形成にも影響を与え続ける『論語』の章句を、「学問のすすめ」「社会に生きる」のテーマ別に配列し、真理を求める態度や正義を重んじる心、公共の精神等を養うことができるよう配慮した。(第1・2・3・5号)</li> <li>・【言語文化の窓⑬】『論語』と現代」に、『論語』と孔子に関する参考資料や渋沢栄一『論語と算盤』、ブックガイドなどを掲載し、『論語』が日本の言語文化の中で果たしてきた役割や現代的価値について、興味を喚起することができるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 265-276
<p><b>4 漢文を楽しむ</b> 完璧／鶏鳴狗盗／人面桃花 【言語文化の窓⑭】漢文世界の広がり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な漢文の世界に親しみ、漢文を楽しむことをねらいとし、「完璧」「鶏鳴狗盗」「人面桃花」を収録した。(第1号)</li> <li>・【言語文化の窓⑭】漢文世界の広がり」に、『三国志』や『水滸伝』など、漢文にルーツをもちつつ、現代でもさまざまな形で親しまれている作品を紹介し、言語文化としての漢文にさらなる興味を喚起することができるよう配慮した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 277-286

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・全編を通じて色彩豊かな写真、図版、イラストなどを多用し、我が国の言語文化への興味をかき立て、積極的に学習活動に取り組む姿勢を引き出すよう配慮した。
- ・各単元の扉に、現代と古典の事物や生活についてビジュアルに比較したイラストを掲載し、古典の世界への関心を高めるとともに、古典と現代のつながりについて考えを深めることができるよう配慮した。
- ・各単元の末尾に、学習のねらいに即した資料をまとめたコーナー「言語文化の窓」を設置し、背景知識の解説、ビジュアルな参考資料、現在活躍している作家や研究者等の文章、関連するブックガイド等を掲載し、我が国の言語文化に対する興味・関心を引き出し、多様な探究的学習に資することができるよう配慮した。
- ・教材に関連して、言葉について興味をもったり認識を深めたりできる内容をまとめたコラム「ことのは」を随所に掲載し、言語文化に対する興味を喚起し、知識を広げたり深めたりすることができるよう配慮した。
- ・巻頭絵に「キーワードで読み解く言語文化」を掲載し、現代文・古文・漢文の枠を超えて、多様な言語文化に対する興味・関心を喚起し、学習への意欲を高めることができるよう配慮した。
- ・巻末に「付録」として、「古典文法のまとめ」「重要古語一覧」「古文参考年表」「漢文参考年表」「現代文参考年表」「古典の暦」「旧国名地図」「漢文参考地図」を掲載し、さまざまな学習の場面で参照し、知識を深めることができるよう配慮した。
- ・巻末に「古典参考図録」として、「古文の舞台」「貴族の暮らし」を位置づけ、古典作品の背景に対する知識を広げたり、興味を喚起したりすることができるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-244	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	言文 050-902	新編 言語文化 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ●基本方針

- 主体的・対話的で深い学びをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるよう配慮する。
- 言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、我が国の文化や伝統に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- 学習指導要領に示された教育目標への対応に配慮しつつ、上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切なテーマを提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

### ●構成

学習上の便宜に配慮して「現代文編」「古文編」「漢文編」に分け、その他に、現代文・古文・漢文を融合的に扱う「詩歌の調べ」を設けた。各編は、取り扱う言語文化のテーマに応じて複数の単元に分け、各単元の学習上のねらいが明確になるよう配慮した。

### ●教材選択にあたっての配慮

- 現代文編では、言語文化としての価値や学習上のねらいをふまえつつ、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材をバランスよく配置した。また、文学作品、評論、随想など、多様なジャンルの文章に触れることができるよう配慮した。
- 古文編・漢文編では、我が国の伝統的な言語文化として高校生に触れておいてほしい名作・名文を精選し、教材化の工夫を行いながら位置づけた。

### ●教材化の工夫

#### 1 ねらいとする資質・能力の明確化

- 単元の扉には、その単元の学習上のねらいを示し、各教材の冒頭に「目標」を掲げて、身につけるべき資質・能力を意識しながら学習に取り組むことができるよう配慮した。
- 本文を読みながらその内容を確実に理解するための「脚問」を本文下欄に、本文の理解を深めるための設問「学習のポイント」を本文の後に位置づけ、文章を的確に読み取る力が身につくよう配慮した。
- 本文下欄の見開きごとに、語句・漢字の学習に役立つ「語句」「漢字」欄を位置づけ、注意したい慣用表現や覚えておきたい常用漢字を提示した。読み替えや同音異義語、対義語なども示し、本文の後の「語句と漢字」欄とあわせて、語彙・漢字の学習に資するよう配慮した。
- 古文編、漢文編では、必要に応じて、傍訳、脚注、参考図版などを掲載するなど、内容を的確に理解するための教材化の工夫を行い、我が国の伝統的な言語文化に対する興味を喚起し、学習への意欲を引き出すよう配慮した。
- 教材の内容と関連させながら、言葉について興味をもったり認識を深めたりできる内容をまとめたコラム「こののは」を随所に位置づけ、言葉に対する理解を深め、探究心を高めることができるよう配慮した。

#### 2 言語文化への興味・関心を引き出す工夫

- 各単元の末尾に「言語文化の窓」を設置し、背景知識の解説、ビジュアルな参考資料、現在活躍している作家や研究者等の文章、関連するブックガイド等を掲載し、我が国の言語文化に対する興味・関心を引き出し、多様な探究的学習に資することができるよう配慮した。
- 巻頭口絵に「キーワードで読み解く言語文化」を掲載し、現代文・古文・漢文の枠を超えて、多様な言語文化に対する興味・関心を喚起し、学習への意欲を高めることができるよう配慮した。

### ●資料編の充実

- 巻末の「付録」「古典参考図録」に、学習のさまざまな場面で随時参照できる資料を、ビジュアルな美しい図版を豊富に用いながら提示し、学習意欲を高めることができるよう配慮した。



